



Ideas & Chemistry

2015.5.12

2014年度決算説明会



東洋紡株式会社
取締役社長
檜原誠慈

決算のポイント

14年度実績

- 営業利益は、4Qで改善も、通期では前年比微減
- フィルム事業での、新設備移管および新製品拡大に伴う費用増。
加えて、包装用は夏場の天候不順の影響あり
- 新製品(コスモシャインSRF、ナーブリッジ)は販売拡大。
エンプラ、バイロンやエアバッグ、RO膜などで海外展開進む

15年度予想

フィルム関連課題の解消方向に加え、新製品と海外の拡大、
原燃料費ダウン等により、営業利益240億円を見込む

	13年度				3,516	14年度				3,513	直近見通し (2015/2)
	上期	下期		上期		下期					
		3Q	4Q			3Q	4Q				
売上高	1,745	830	941	1,771	1,723	831	959	1,790	3,600		
営業利益	113	41	57	97	210	90	35	81	115	210	
当期純利益	52	13	17	30	82	26	33	22	55	80	

I . 2014年度決算概況

(1) 決算概要 ① PL・CF

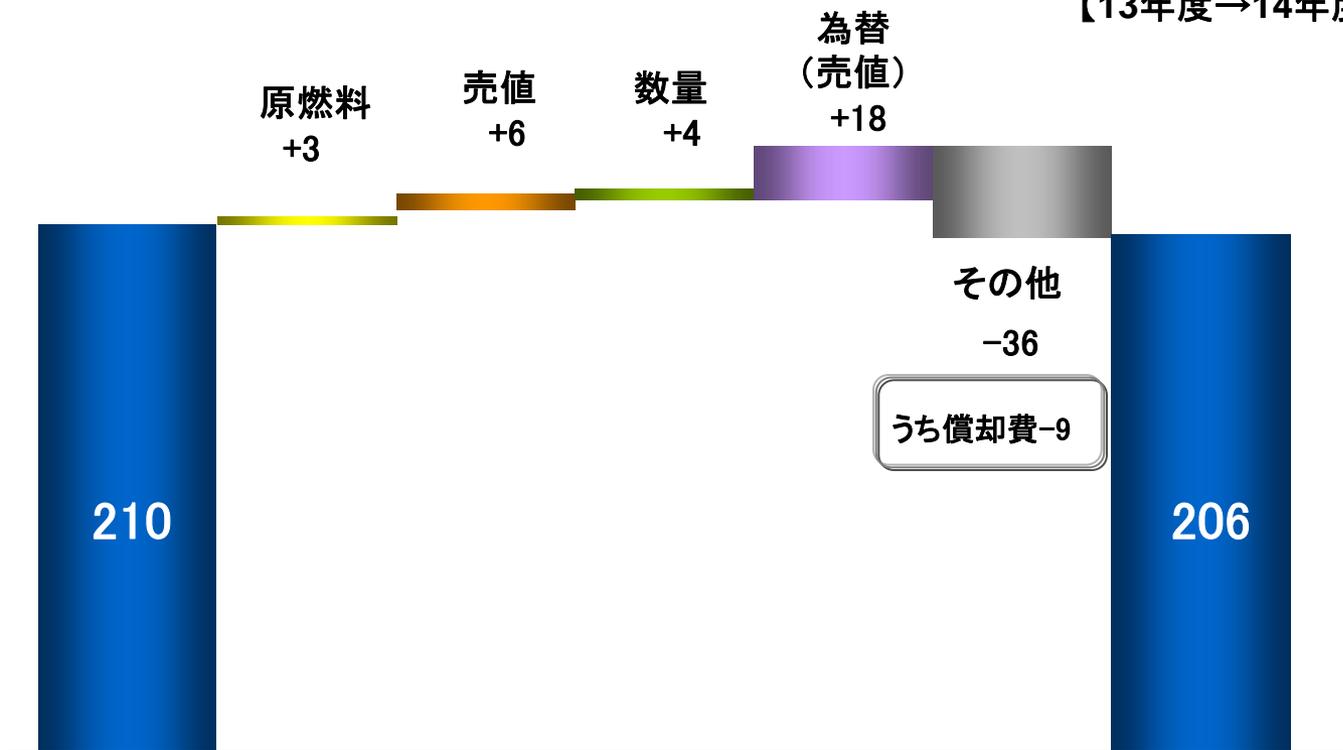
ポリエステルチェーン改革を実行、経常利益は減少

(億円)

	13年度	14年度			増 減		直近見通し (2015/2)
		上期	下期		金額	%	
売上高	3,516	1,723	1,790	3,513	-3	-0.1%	3,600
営業利益	210	90	115	206	-4	-2.0%	210
(営業利益率)	6.0%	5.2%	6.5%	5.9%	-	-	5.8%
経常利益	184	53	110	163	-22	-11.8%	155
うち持分法損益	(2)			(-11)	(-13)		
当期純利益	82	26	55	81	-0	-0.5%	80
EPS(円)	9.18	2.92	6.22	9.14	-	-	
減価償却費	140	75	74	149	+9	+6.3%	
設備投資	201	80	95	175	-26	-12.9%	
営業CF	239	85	116	201	-38	-16.0%	
為替レート(円/US\$)	100	103	117	110			
国産ナフサ価格(千円/KL)	67	71	57	64			

営業利益増減要因分析

【13年度→14年度】



13年度

14年度 (億円)

	13			14		
	上	下		上	下	
円レート (¥/\$)	99	102	100	103	117	110
国産ナフサ (千円/kl)	65	70	67	71	57	64

② BS

	14/3末	15/3末	(億円) 増減
総資産	4,563	4,658	+95
うち棚卸資産	754	824	+70
純資産	1,451	1,611	+160
自己資本	1,423	1,580	+157
(自己資本比率)	31.2%	33.9%	
少数株主持分	28	31	+3
有利子負債	1,707	1,771	+64
D/E レシオ	1.20	1.12	

(2) セグメント別

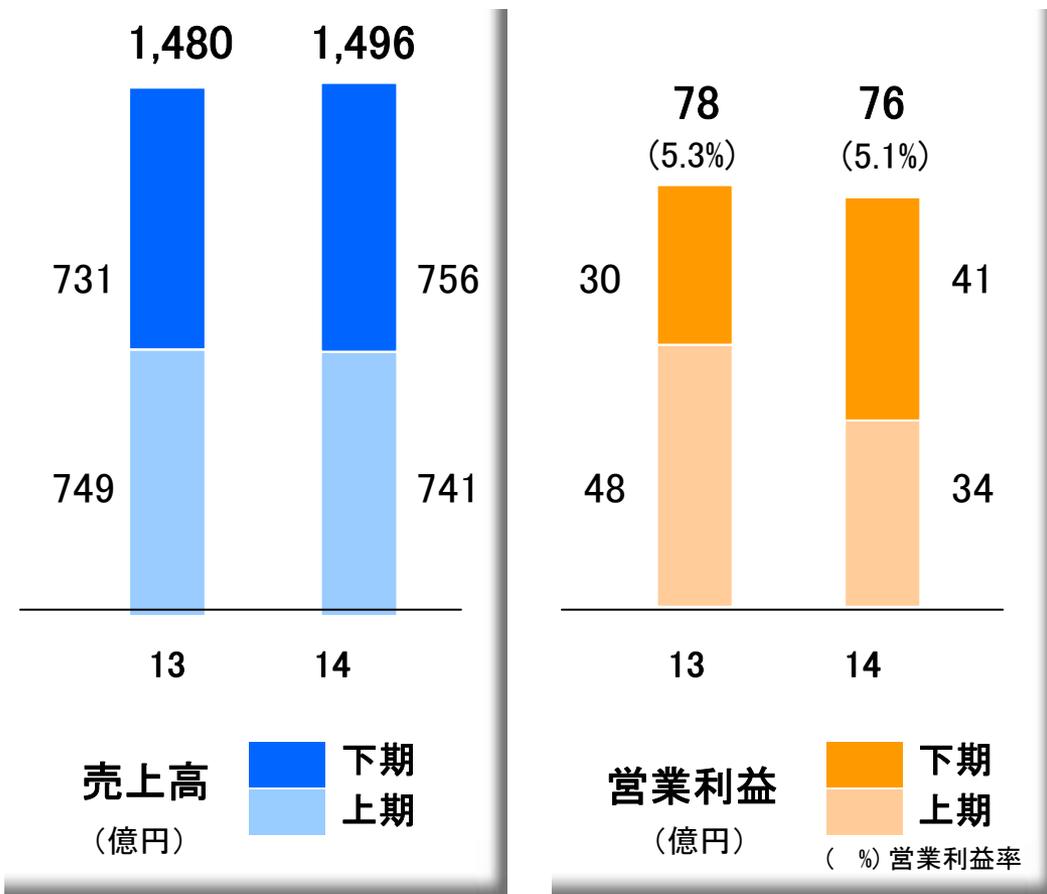
(億円)

	売上高				営業利益			
	13年度	14年度		13年度	14年度			
		上期	下期		上期	下期		
フィルム・機能樹脂	1,480	741	756	1,496	78	34	41	76
産業マテリアル	717	322	357	679	55	26	34	60
ライフサイエンス	273	141	146	287	51	23	27	50
スペシャルティ計 (営業利益率)	2,470	1,204	1,259	2,462	184 7.5%	84 6.6%	103 8.2%	186 7.6%
衣料繊維	791	384	385	769	30	9	15	24
不動産・その他	254	136	146	282	27	12	15	27
消去・全社	-	-	-	-	-31	-14	-17	-31
合計	3,516	1,723	1,790	3,513	210	90	115	206

① フィルム・機能樹脂

フィルムは、包装用、工業用共に増収も、新製品や新設備に係る一時的な費用により減益。

機能樹脂は、バイロン、エンプラ他が堅調、海外展開進む



● 工業用フィルム

- ・光学用は堅調
- ・“コスモシャイン SRF”も販売拡大

● 包装用フィルム

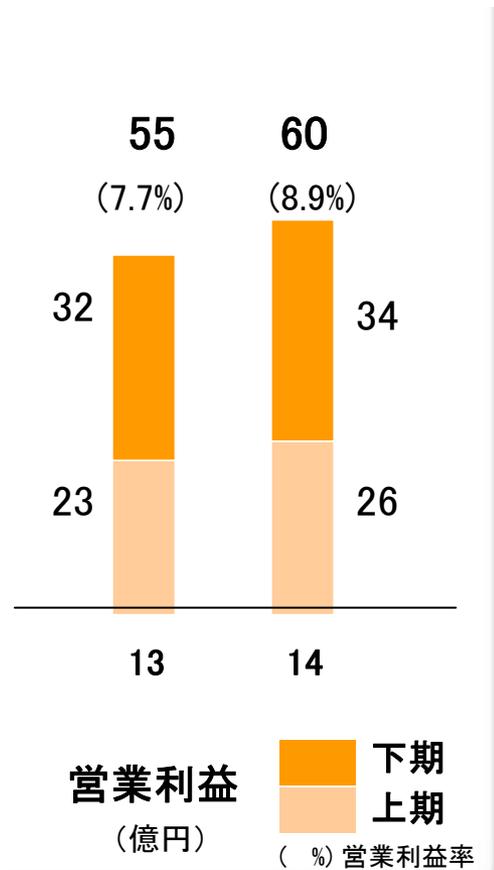
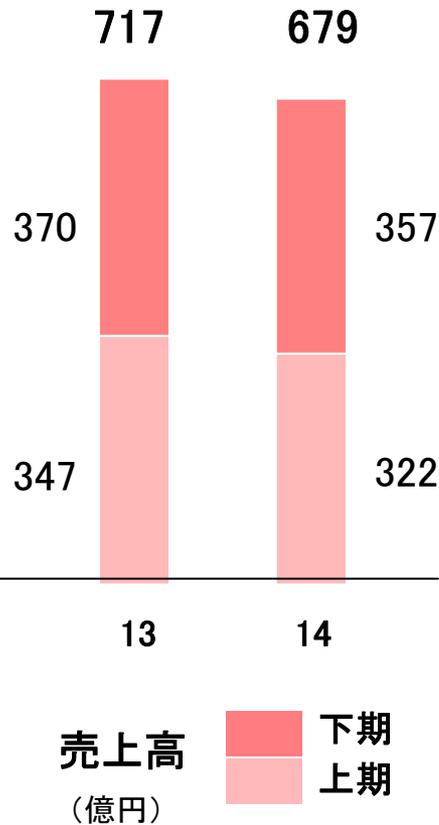
- ・拡販により販売数量増
- ・消費増税、夏場の天候不順の影響

● 機能樹脂

- ・“バイロン”はIT・電子関連が堅調
- ・エンプラは海外が好調

② 産業マテリアル

エアバッグ用基布は、原料高の影響、海外拡大費用増
スーパー繊維、スパンボンドが堅調



● エアバッグ用基布

- ・タイ、中国、米国で拠点を整備、海外ユーザーの認証取得へ

● スーパー繊維

- ・“ザイロン”が耐熱用途で好調

● 機能フィルター

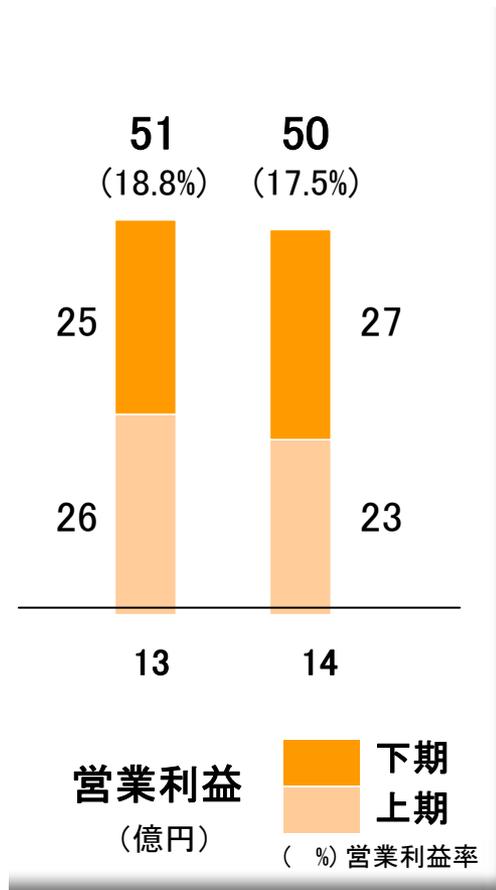
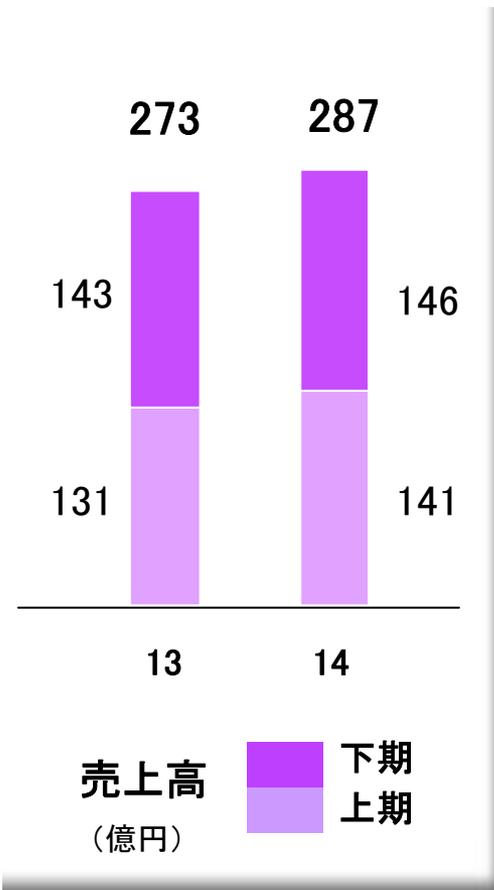
- ・VOC回収装置が回復基調

● スパンボンド

- ・土木、建築用途を中心に拡大

③ ライフサイエンス

新製品の“ナーブリッジ”は着実に拡大
 バイオが好調も、医用膜や医薬品製造受託が苦戦



● バイオ

- ・診断薬用酵素が海外で好調
- ・ライフサイエンス用試薬が拡大

● 医薬

- ・受託案件延期の影響で苦戦

● 医療機器

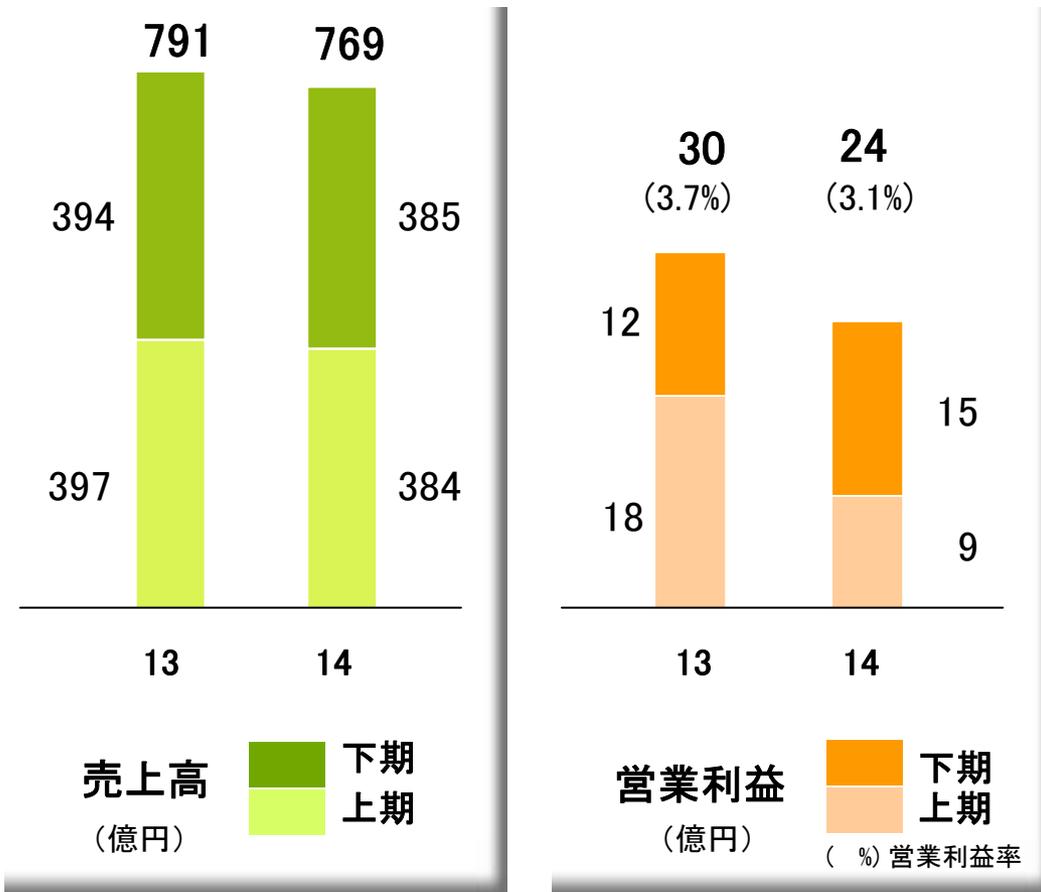
- ・“ナーブリッジ”は、症例数増加

● 機能膜

- ・医用膜は海外向けで苦戦
- ・アクア膜(RO膜)は交換膜需要で堅調

④ 衣料繊維

中東向けは、円安効果で堅調
 アクリル繊維は、中国市況の軟化と原料高の影響



● 東洋紡STC(繊維)

- ・中東向けトープは、円安効果で堅調

● 海外関係会社

- ・中南米で景気減速

● アクリル繊維

- ・中国市況の軟化と原料高の影響

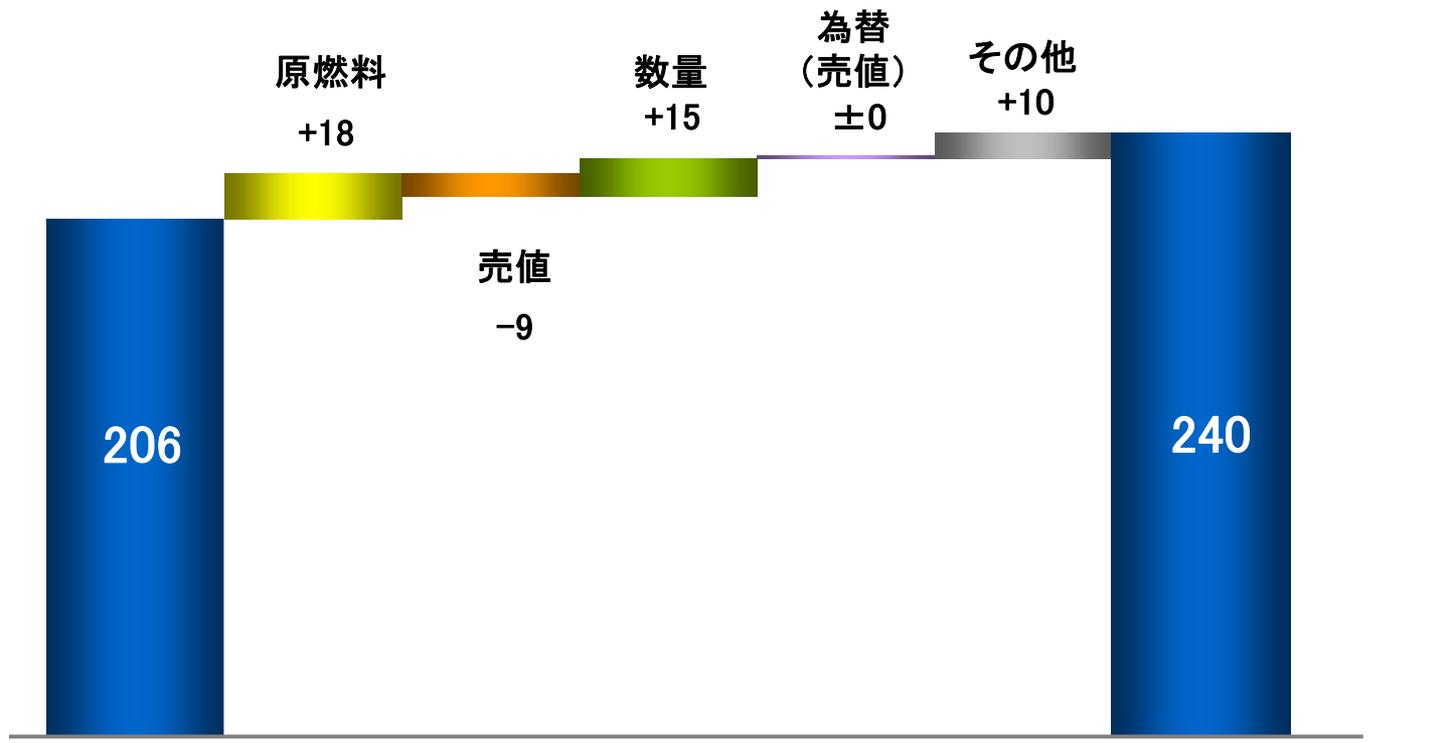
Ⅱ. 2015年度業績予想

(1) 業績予想

	14年度実績	15年度予想	増減	
			金額	%
売上高	3,513	3,650	+137	+3.9%
営業利益	206	240	+34	+16.6%
(営業利益率)	5.9%	6.6%	-	-
経常利益	163	220	+57	+35.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	120	+39	+47.8%
EPS(円)	9.14	13.52	-	-
減価償却費	149	155	+6	-
設備投資	175	180	+5	-
為替レート(円/US\$)	110	118		
国産ナフサ価格(千円/KL)	64	60		

営業利益増減要因予想

【14年度→15年度】



14年度

15年度

(億円)

	14	15
円レート (¥/\$)	110	118
国産ナフサ (千円/kl)	64	60

(2) セグメント別予想

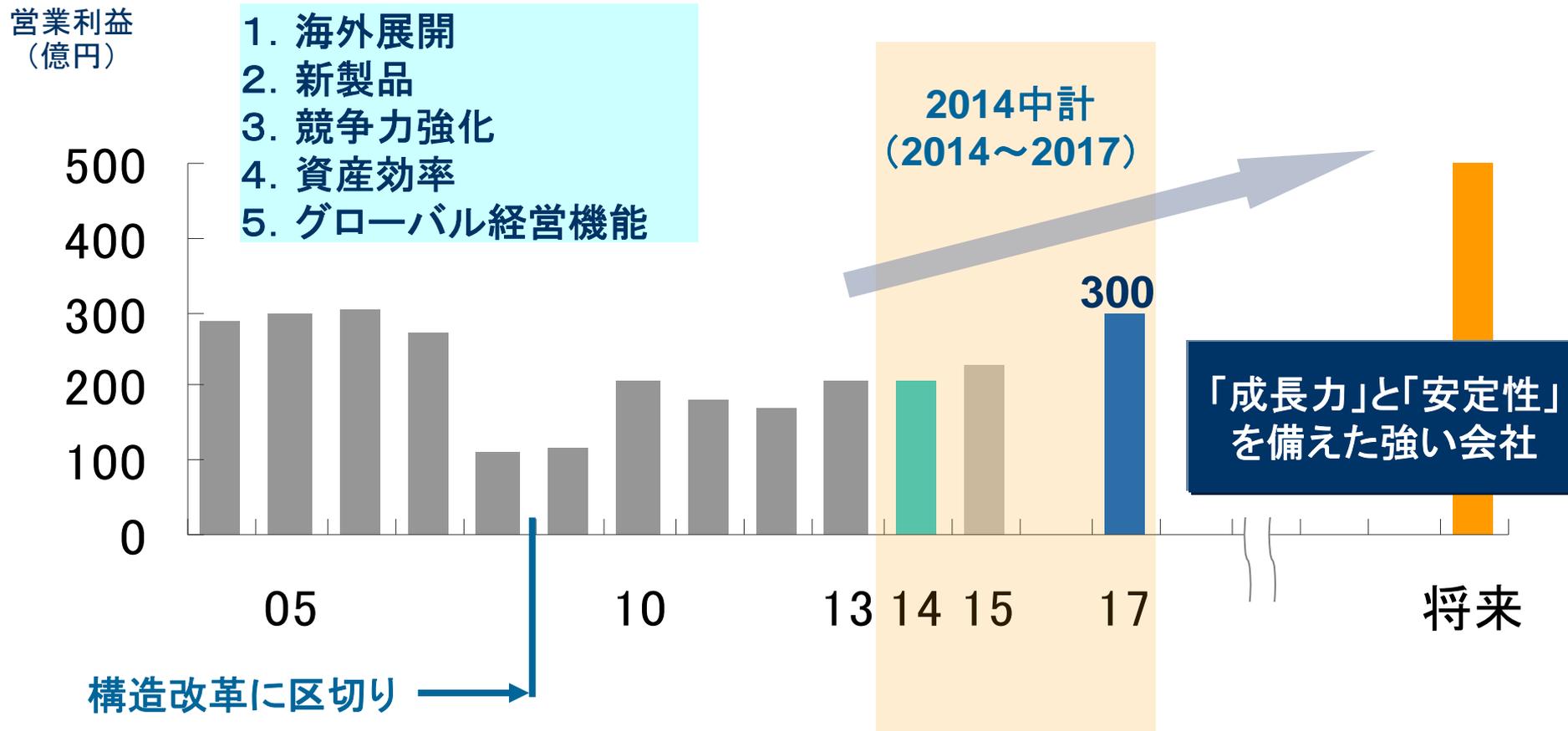
(億円)

	売上高		営業利益		増減
	14年度	15年度	14年度	15年度	
フィルム・機能樹脂	1,496	1,560	76	94	18
産業マテリアル	679	735	60	64	4
ライフサイエンス	287	315	50	58	8
スペシャルティ計	2,462	2,610	186	216	30
(営業利益率)			7.6%	8.3%	
衣料繊維	769	790	24	28	4
不動産・その他	282	250	27	27	0
消去・全社	—	—	−31	−31	0
合計	3,513	3,650	206	240	34

Ⅲ. 2014年中計進捗

2014中計の位置付け

将来のめざす姿（売上高5,000億円・営業利益500億円）への成長軌道に乗せるための中計



アクションプラン

1. 海外展開加速

- サウジアラビア 海水淡水化用逆浸透膜 (RO膜) 生産設備増設
- タイ／中国／米国 エアバッグ拠点整備
～海外ユーザーの認証取得へ～
- メキシコ エンプラ現地法人設立
～中米での販売加速～
- ブラジル エンプラ生産工場稼働へ

2. 新製品の拡大・創出

- 超複屈折ポリエステルフィルム
“コスモシャイン SRF”
- 神経再生誘導チューブ
“ナーブリッジ”
- 骨再生誘導材
- FO膜(正浸透膜)



ヘルスケア
事業の拡大

3. 国内事業の競争力強化 4. 資産効率の向上

- 未延伸フィルム生産子会社の合併
- ボトル用樹脂事業からの撤退、ポリエステルチェーン改革

5. グローバル経営機能の強化

- グローバル業績管理体制の強化／IT基盤の整備
- 人材の確保と育成のための仕組みづくり

進捗状況(新製品)

“コスモシャイン SRF”

- 液晶偏光子の保護フィルム用途を中心に展開
- 強み
 - ・ 価格競争力
 - ・ 設備改造なく、使用可能
 - ・ 低透湿性
- 韓国と台湾の2社で採用拡大、大手1社でも採用開始
- 前年比倍増、テレビ以外の用途でも広がり(モニター 他)



“ナーブリッジ”

- 国内初の神経再生誘導チューブとして展開
- 特長
 - ・ 「自家神経移植」と同等の効果
 - ・ 適用可能長は世界最長(5cm) ⇔米国品 2cm
 - ・ 材料は体内吸収されて消失
- 使用施設数、適用症例数は順調に増加
- 国内販売代理店を複数化
- 米国展開を加速 FDA対応



新製品の創出へ “骨再生誘導材”

骨欠損部に埋入して、骨の再生を誘導させる材料

- 背景
 - ・ 病気や怪我で骨の一部が欠損→障害
 - ・ 「自家骨移植」を代替
 - ・ 東北大開発の”OCP/Collagen”
～リン酸オクタカルシウム・コラーゲン複合体～

- 開発と治験、製品化
 - ・ 東北大と共同で試験(2013～ 動物実験 他)
 - ・ 歯インプラントのための骨再建を対象として
治験へ(東北大を主幹施設とする多施設共同治験)
 - ・ 製造販売承認申請を経て、製品化へ(2018～)

“ナブリッジ”につづく、新しい
再生誘導材料として、製品化をめざす



- 特長
 - ・ 新生骨は元の自家骨と同等の性質を示すと期待
 - ・ 分解・吸収されて、体内には残らない
 - ・ 自家骨移植と比較して、患者様の負担を軽減

補 足

訴訟関連

<概要>

- ① 03年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故:1件)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起

<解決済みの訴訟－いずれも和解による解決>

- ・購入者からの集団訴訟－2005年10月
- ・事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)－2006年から2007年
- ・ドイツ州政府からの訴訟－2009年2月
- ・防弾ベストメーカーからの訴訟－2011年7月(2件)および2012年3月

<訴訟状況>

(2015.5.11現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブラック	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06～07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続済	和解成立 (11年2月)	和解成立 (11年7月)	和解成立 (12年3月)	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社